

# 「改憲案持っておくべき」

## 期限決めた議論は反対

国民・奥野氏



各党憲法責任者に聞く

ない」と述べた。階猛氏の離党で空白だった党憲法調査会長を早期に決め「党内議論に着手したい」とした。改憲案をまとめる時期は言及しなかった。他の野党と調整しながら「次期衆院選の政権構想で野党として憲法のあり方を示したい」とも語った。

立憲民主党との会派合流の議論をしていることでは「我々として憲法を議論していくべき立場は変わらない」と述べた。「野党の中で憲法の議論をリードしていく。野党共闘を壊さない形で進めたい」と強調した。

憲法議論の項目には「地方分権の強化や衆院解散権の制約、同性婚、参院のあり方など様々な視点が必要だ」と訴えた。「案に入れるかは別として9条の議論は避けて通

れない」とも語った。自民党の改憲4項目には「自衛隊の自衛権の範囲を無制限に広げる恐れがある」と反対した。

奥野氏は安倍晋三首相が掲げてきた2020年の新憲法施行について「期限を決めて議論をずる話ではないし、安倍内閣でやる必要もない。安倍さんの野心が透けて見える」と批判した。

国民民主は改憲の手続きを定めた国民投票法改正案の対案を国会に提出している。政党などが賛否を呼びかけるテレビCMやインターネット広告を規制する内容で「時代に合った形へと抜本的な改正が必要だ」と強調した。憲法審査会で議論が進まない現状について「非常に残念だ。速やかに審議してほしい」と語った。

国民民主党の奥野総一郎憲法調査会事務局長は日本経済新聞のインタビューで党独自の改憲案の議論を進める考えを示した。「公党としてきちんとした案を持っておくべきだ。まず党憲法調査会で案のたたき台をつくりたい」と語った。改憲の時期について「幅広い議論をして機が熟した時で良い。急いでやる必要も

ない」と述べた。階猛氏の離党で空白だった党憲法調査会長を早期に決め「党内議論に着手したい」とした。改憲案をまとめる時期は言及しなかった。他の野党と調整しながら「次期衆院選の政権構想で野党として憲法のあり方を示したい」とも語った。